

学力向上に効果のある取組事例

九重町立野矢小学校

⑰ 校内研修などによる授業改善

対話力の向上

① 協調学習を活用した対話力の向上

② オンラインによる小規模校同士の交流。

(自治体を超えたつながり学習・町内小規模校4校での国語の合同学習・県内小学校との総合学習内容の交流など)

③ 児童の発言から対話に有効な語句の共有。(対話の木としてクラスごと掲示)



野矢小 2026 校内研究(協調学習)の方向性

2026 年 4 月 9 日 (木) 研究部

1. 昨年度の研究から見てきたこと

- 昨年度のテーマ・重点・内容(苦手を消す)
 - ＜授業改善テーマ＞ 主体的・対話的に学び合い、課題解決に向かう子どもの育成
 - ＜授業改善の重点＞ 協働的な学びを通して意欲の学びを深める授業改善
 - ＜取り組み内容＞
 - ・授業者は、子どもが主体的・対話的に取り組む課題設定を工夫する。
 - ・授業者は、グループ学習において、自分の考えを言いつつまとめることで、互に高めあわせる。

- ＜昨年度 野矢小 研究の課題＞ 対話的・協働的な学びの深化
 - 子どもの思考の深さを授業者が理解できておらず、考えづくりの場に出し過ぎていた。
 - 知識構成型ジグソー法と新大分スタンダードが意識しているものと捉えてしまっていた。
 - クロストーク(交流)の在り方や展開について、どのように交流させたら良いかを知っていく必要がある。
 - 相手が説明できるまで、友だちの考えを言葉で言い換え合うなどクロストークの展開の工夫が必要。
 - 子どもの進、退り、「わからない」と言えない部分を、どのようにしていくか。(児童)
 - 「本当にそうなん？」など、課題に結びつく言葉が子どもたちから出ると、もっと深まっていく。(児童)

野矢小の良さ

⇒主体的に「学びたい」「解決したい」と感じている子どもは多い。

野矢小の課題

⇒他者の意見を聞くことで、自分の考えが変わったり深まったり、

考えが深まったことを表現したりすることが苦手。

対話的：自分とは異なる考えに触れて、自分の考えを改めて深めたりすること。(学びの質)
 協働的：異なる個性や考えを持つ人たちが集まり、新しい価値や納得感を生み出すこと。(学びの在り方)

2. 今年度のテーマ・重点・内容

授業改善テーマ	対話的に学び合い、課題をやりぬこうとする子どもの育成
授業改善の重点	協働的な学びを通して、意欲の学びを深め、表現できる授業改善
取り組み内容	・子どもが対話的に取り組む課題設定の工夫 ・子どもが対話的に取り組むクロストーク(交流活動)の工夫

3. めざす子ども像

- ◎課題を提示した時に、「この課題、ジグソーしたいんじゃないか？」と言う子ども。
- ◎クロストークの時に、「え？待って。○○さんの考えて、どういうこと？」と言い、活発に他者の意見を聞く子ども。
- ◎授業後に、ブレよりポストの考えが深まっていて、電さ、「次もやりたい！」と言う子ども。

若手教職員への支援

① 授業力向上アドバイザーによる若手教職員への指導。

② 若手教職員の困りを取り入れた校内研究の実施。

③ 困りをもっている児童に対する年間を通したみとり・支援のあり方を全教職員で情報共有し、協議する取組。

第7回 校内研修(人権)

2026 年6月24日(水) 場所:職員室

ワークシート

○ 自立とは？「自分の足(力)で立つ(生活する)こと」という考え方は時代遅れ。自立とは、

- ・自分のできることは【 】をもって行い、
- ・できない人から求められたら【 】すること。

- ・自分のできないことには【 】になって、
- ・できる人に【 】を求めること。

「【 】」と考えること。

私たちは、この「【 】」を考える子どもたちを育てていくわけだからならぬ。

「Independent (他人に依存しない自立)」は、自立ではなく他立。

自立とは、「Interdependent (相互に依存共存)」である。(福岡県人権啓発推進センター)

P-23 あなたが今、悩んでいる子の中で【困り】を抱えている子 A 君を思い浮かべてください。

その子は、どんな困りを持っていますか？(字で書いてください)

P-24 その子は、どのように【困り】を抱えているのか？(どのように【困り】を抱えているのか？)

もしも困り解消がなければ、どんな支援をしたら困り解消がされるか？(支援方法を教えてください)

P-25 どうなすまで(支援)したら、その子の困りが解消されると感じますか？



- 授業力向上アドバイザーによる経験年数の浅い教職員へのOJT
- 児童を中心とした授業づくりについて、活発に討議
- 指導を受けた教職員は、各種授業研究会で授業を公開しており、授業力の向上が図られている